



ふじ美が原

富士見中学校

平成23年9月6日

よろしくお願ひします。

ユーエン・マクドナルド先生

ユーエン先生のご紹介

1988年ニュージーランドでお生まれになっています。現在23歳です。その後オタゴ大学などでお勉強され、英語教授法や商学士、文学士などの資格をお持ちになっておられます。

日本には、というよりこの富士見町には、いまから10年前にホームステイをしたことがあるということです。

趣味や特技などの詳しいことは、授業などで積極的に質問をしていってください。



歓迎の言葉

ユーエン先生、ようこそ富士見中学校にお越し下さいました。私たちは先生がおこしになることを心待ちにしておりました。

先生は、10年前、富士見町でホームステイをしたことがあるそうで、ご存じかと思いますが、この富士見町は美しい自然に恵まれ、心温かな人々が暮らしています。今回、ALTとしてお世話になるわけですが、先生がさらにこの富士見町を好きになってくれるものと思っています。

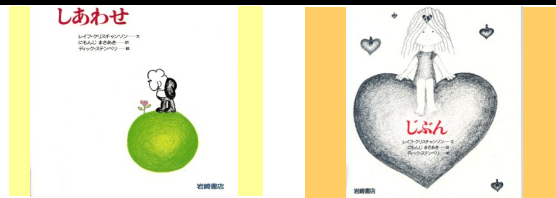
どうぞよろしくお願ひします。

校長講話 「読み聞かせ」

『しあわせ』

『じぶん』

レイフ・クリスチャンソン...文、にもんじ まさあき...訳、ディック・ステンベリ...絵



生活記録より

今日は校長講話で、絵本の読み聞かせがあった。最初に聞いた『じぶん』は、ただ絵が面白いなと思ひながら見ていた。僕が心に残ったのは、『しあわせ』の方だった。簡単な絵本だったけれど、自分がどういふ人になれば自分や他の人をしあわせにできるのか、色々考えさせられた。この話も心に留めながら毎日過ごしてみたい。

夏休み中の生活・前期後半が始まって

～ 生活記録より ～

夏休み中の生活

早めに宿題を終わらせることは出来たけれど、宿題が終わってからあまり勉強をしなくなってしまったので早めに宿題が終わったらもっとたくさん自主勉強をするようにしたかったです。とても楽しんだ、たくさん遊びもした夏休みで、大満喫しました。家の人の手伝いはやるときとやらないときがあって、今思ひともっとたくさんいろいろな手伝いを自分から出来たなあと思ひました。楽しい時間はあっという間でした。

目標通り17日に課題が全て終わったので、最後の4日間はとても気持ちよくて、楽しめることができて良かったです。3日、4日では北信越大会で富山に行き、スゴイところで走ることができたし、他の競技者の走りとかも見れたので、この経験を生かしてこれからもがんばりたいです。

自分で目標を立てて毎日忘れず、ラジオ体操に行けてよかったです。多分、中学生で毎日来ていたのはほくだけです。がんばれてよかったです。部活にも忘れずに行くことができた。オッコー祭りの空手の演舞が成功してよかった。

部活がある日は早く起きていたけど、部活がない日は10時くらいまで寝ていたので、もっと早く起きたかったです。夜は11時くらいまで起きていたので、ねむたかったです。お手伝いもしっかりできて宿題もしっかり終わってよかったです。

夏休みに出された宿題を最後の日に一気にやっちゃいました。宿題はちゃんとできなかったけど、それ以外の勉強は毎日30分以上はできたのでよかったです。早寝早起きは、たまにできていなかったの、がんばりたいです。

全体的に宿題が後半の方に固まってしまった。家族4人で山に登ったのはとても良い思い出になってよかった。オッコー祭りでは仲間と楽しく、宿題のことも忘れるくらい満喫できたのでよかったです。22日からは気を引き締めて学校に行きたい。

前期後半が始まって

今日から、また学校が始まりました。授業は嫌だけど、久しぶりに会う友だちが沢山いて、とっても楽しかったので、張り切って学校に行きました。やっぱり久しぶりの学校は楽しかったです。夏休み中の話で、とても盛り上がりました。

今日は久しぶりの学校でみんなと会えました。「みんな少しは変わったところあるかな～」と思いましたが、特に何も変わったことはなく、いつもと一緒にだったので良かったです。僕の少し変わったところと言えば...? あっ、背が少し伸びた?ことだと思います。なので今度の発育測定が楽しみです。

今日、久しぶりの学校でした。なぜだか1日早く終わったような気がしました。久しぶりに会った人たちもいて、懐かしかったです。そして、久しぶりの短い部活だったので、もう終わりと思ったくらいでした。明日も頑張るぞ!!

今日は休み明けの学校初日です。最初はやる気がなかったけど、行くのにぎやかで、沢山話して慣れました。まだ荷物を全部持ってきていないので、明日明後日で荷物をもってきたいです。これからも委員会や係の仕事を忘れないようにしたいです。

「藤村文学賞」優秀賞 富士見中・ニャーシャさん



学校のグラウンドでサッカー部の早期練習に励むニャーシャさん

富士見町の富士見中学校2年生カテザ・ニャーシャさんが、小諸市や同市教育委員会などが主催し、随筆作品を募集した「第11回小諸・藤村文学賞」の中学生部門で、優秀賞に選ばれた。アフリカ南部ジンバブエ出身の父と日本人の母の間に生まれたニャーシャさんは、食べ物や学校生活などに表れる両国の文化の違いを取り上げながら、日々感じることを率直につづった。

ジンバブエで生まれたニャーシャさんは1歳の時、外国語指導手の父ナモネスさんの47、県諏訪養護学校講師の母キキさん49、兄3人と日本に移住。ふき子さんの実家がある同町重里に来て小学校を卒業した。日本とジンバブエの違いから感じる事と題した随筆は、昨年の夏休みの宿題として400字詰め原稿用紙5枚に書いた。食生活では魚を多く食べる日本と肉料理が中心というジンバブエの違いを説明。海のないジンバブエ

「本当の幸せ」問い掛け

カテザ・ニャーシャさん 「藤村文学賞」優秀賞受賞

藤村文学賞は、小諸市に戦時中疎開していた島崎藤村の生誕120年と没後50年を機に始まった賞だそうです。

一般の部、高校生の部、中学生の部があり、中学生の部で本校のニャーシャさんが見事、優秀賞をいただきました。

国語の授業で「日本とジンバブエの違いから感じる事」という題で書いた作品ですが、素直な目、素直な心で「二つの国」について感じたことを書いています。

白鈴祭でこの作品を発表することになっています。是非、お聞きいただけたらと思います。

(信濃毎日新聞 8/26付)

日本・ジンバブエ 異文化見つめる

では牛などの家畜を「生きた財産」として大切に育て、庭でマンゴーやバナナといった多彩な果物を栽培し、食べ物もみんな自分で分け合っていると。学校給食については「毎日違うメニューを食べられて幸せなことだと思う。でも、嫌いな食べ物を残す人もいる。ジンバブエでは毎日同じ物でも楽しくおいしく食べていた」と指摘。学校についても「ジンバブエには家族の手伝いで通学できない子どもがたくさんいる。学校に行けることほうれいしたこと」とした上で、「本当の幸せは何だろう」と疑問を投げかけた。

ジンバブエを再訪する機会はないものの、ナモネスさんに母国の文化を教わって育ち、英語も話すことができる。随筆にはこうした境遇を「日本と地球の反対側にあるアフリカ大陸の二つの場所から生まれたこと」はシリアルだと記した。

同賞は今回、一般・高校生・中学生の3部門に全国から計1800点余の応募があり、県内で優秀賞以上はニャーシャさん一人だった。

サッカーが大好きなニャーシャさんは、学校のサッカー部で男子に交って練習する傍ら、山梨県北杜市の女子フットサルチームにも所属して汗を流す。「将来の夢はまだ決まっていなくても、英語と日本語を使う職業に就きたいいなと思う。でも、今は楽しく日々を過ごしていきたい」と話した。

富士見町立富士見中学校
諏訪郡富士見町富士見4654番地
TEL 0266-62-2009
FAX 0266-62-7409
伊藤十三雄

